

第 28 回ビジネス会計検定試験より抜粋

(2021 年 3 月 14 日施行)

I

次の【問 1】から【問 3】の設問に答えなさい。

【問 1】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 建物、機械装置、土地などの有形固定資産は、減価償却を行う。
(イ) 定率法を用いると、毎期の減価償却費は一定となる。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 2】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 社債の発行による収入は、財務活動によるキャッシュ・フローの区分に記載される。
(イ) 自己株式の取得による支出は、投資活動によるキャッシュ・フローの区分に記載される。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 3】 1 株当たり純資産に関する次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 企業の純資産に対する資本市場の評価額を示す指標である。
(イ) 最低株価の目安とされることがある指標である。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

Ⅱ

次の【問1】から【問3】の設問に答えなさい。

【問1】 次の項目のうち、会社法上の計算書類に含まれるものの適切な組み合わせを選びなさい。

ア. 株主資本等変動計算書 イ. 附属明細表 ウ. 個別注記表
エ. キャッシュ・フロー計算書 オ. 損益計算書

- ① アイウ ② アイエ ③ アウオ ④ イエオ ⑤ ウエオ

【問2】 次の文章の空欄（ア）と（イ）に当てはまる語句の適切な組み合わせを選びなさい。

企業情報には、財務諸表や従業員数といった定量情報と（ア）のような定性情報がある。
企業の開示情報に、定性情報は（イ）。

- ① （ア）販売シェア （イ）含まれる
② （ア）販売シェア （イ）含まれない
③ （ア）経営者の資質 （イ）含まれる
④ （ア）経営者の資質 （イ）含まれない

【問3】 次の資料により、営業外収益の金額を計算し、正しい数値を選びなさい。
（金額単位：省略）

投資有価証券売却益 20 社債利息 15 有価証券評価益 20 受取配当金 5
有価証券利息 10 固定資産売却益 25

- ① 35 ② 40 ③ 45 ④ 55 ⑤ 60

Ⅲ

A社に関する<資料1>から<資料4>により、【問1】から【問15】の設問に答えなさい。分析にあたって、貸借対照表数値、発行済株式数および株価は期末の数値を用いることとし、純資産を自己資本とみなす。△はマイナスを意味する。なお、計算にあたって端数が出る場合は、小数点以下第2位を四捨五入するものとする。

<資料1> 貸借対照表

(単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,000	500
受取手形	1,300	800
売掛金	()	2,000
電子記録債権	1,000	1,700
有価証券	1,500	1,000
商品	1,000	500
その他	200	500
流動資産合計	()	7,000
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,000	7,500
車両運搬具	1,000	2,000
備品	(ア)	2,350
有形固定資産合計	()	11,850
無形固定資産		
ソフトウェア	800	700
無形固定資産合計	800	700
投資その他の資産		
投資有価証券	1,200	2,000
長期前払費用	200	100
繰延税金資産	300	150
投資その他の資産合計	1,700	2,250
固定資産合計	()	14,800
繰延資産		
開発費	500	400
繰延資産合計	500	400
資産合計	24,000	22,200

	X 1 年度	X 2 年度
負債の部		
流動負債		
支払手形	800	400
買掛金	2,000	(イ)
電子記録債務	1,500	1,400
短期借入金	1,000	700
その他	200	170
流動負債合計	5,500	()
固定負債		
長期借入金	3,000	2,230
退職給付引当金	1,000	()
固定負債合計	4,000	()
負債合計	9,500	()
純資産の部		
株主資本	13,800	14,200
評価・換算差額等	400	200
新株予約権	300	300
純資産合計	14,500	14,700
負債純資産合計	24,000	22,200

<資料2> 損益計算書

(単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
売上高	(ウ)	()
売上原価	()	()
売上総利益	()	()
販売費及び一般管理費	6,000	5,600
営業利益	()	()
営業外収益	500	200
営業外費用	500	1,200
経常利益	()	(オ)
特別利益	—	500
特別損失	1,000	1,000
税引前当期純利益	()	()
法人税、住民税及び事業税	1,800	1,000
法人税等調整額	△300	△500
当期純利益	(エ)	()

<資料3> キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,000	3,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,000	(カ)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,800	()
現金及び現金同等物の増減額	200	()
現金及び現金同等物の期首残高	800	1,000
現金及び現金同等物の期末残高	1,000	500

<資料4> その他のデータ

X 1 年度

有形固定資産の貸借対照表構成比率 50% 売上高売上総利益率 20%

総資本回転率 2.5 回 発行済株式数 10 百万株 1 株株価 2,000 円

X 2 年度

売上高：前年比 20%減 売上高売上総利益率：X 1 年度と同じ

正味運転資本 2,830 百万円 フリー・キャッシュ・フロー 2,000 百万円

発行済株式数 11 百万株 1 株株価 1,500 円

【問1】 <資料1>の空欄（ア）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 1,000 ② 1,500 ③ 2,000 ④ 2,500 ⑤ 3,000

【問2】 <資料1>の空欄（イ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 500 ② 1,000 ③ 1,500 ④ 2,000 ⑤ 2,500

【問3】 <資料2>の空欄（ウ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 40,000 ② 50,000 ③ 60,000 ④ 70,000 ⑤ 80,000

【問4】 <資料2>の空欄（エ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 2,000 ② 2,500 ③ 3,000 ④ 3,500 ⑤ 4,000

【問5】 <資料2>の空欄（オ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① 1,000 ② 2,000 ③ 3,000 ④ 4,000 ⑤ 5,000

【問6】 <資料3>の空欄（カ）に当てはまる数値を選びなさい。

- ① $\Delta 2,500$ ② $\Delta 2,000$ ③ $\Delta 1,500$ ④ $\Delta 1,000$ ⑤ $\Delta 500$

【問7】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) キャッシュ・フロー計算書を間接法で作成する場合、減価償却費は税引前当期純利益から減算する。
(イ) X1年度のキャッシュ・フロー計算書は、営業活動により生み出したキャッシュを会社の将来の事業のための投資活動と借入金返済の財務活動に充てている資金繰りのパターンといえる。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問8】 次の文章の空欄（ア）と（イ）に当てはまる数値と語句の適切な組み合わせを選びなさい。

X2年度の売上債権は（ア）百万円であり、X1年度より（イ）している。

- ① (ア) 2,800 (イ) 増加
- ② (ア) 2,800 (イ) 減少
- ③ (ア) 4,500 (イ) 増加
- ④ (ア) 4,500 (イ) 減少

【問9】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) X2年度の売上総利益の伸び率は、 $\Delta 25\%$ である。
(イ) 売上高が今後2年間とも10%の伸び率を継続したとすると、X4年度の売上高はX1年度の売上高まで回復する。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 0】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 安全性分析の指標は、企業の支払能力や債務の弁済能力の判定に用いられる。
(イ) 流動比率からみると、X 2 年度の方が安全性が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 1】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 手元流動性は、現金及び預金、有価証券、投資有価証券の合計金額で示される指標である。
(イ) 手元流動性は、X 2 年度の方が大きい。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 2】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 自己資本比率は、貸借対照表における資金の調達源泉全体に占める自己資本の割合を示す指標である。
(イ) 自己資本比率は、X 2 年度の方が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 3】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 総資本経常利益率は、売上高経常利益率と、企業の投下資本総額と経常利益を対比した総資本回転率に分解できる。
(イ) 売上高経常利益率は、X 2 年度の方が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 4】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 当期純利益が同額であっても、発行済株式数が異なる場合、1 株当たり当期純利益は異なる。
(イ) 1 株当たり当期純利益は、X 2 年度の方が大きい。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問 1 5】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 株価収益率は、X 2 年度の方が高い。
(イ) 1 株当たり純資産は、X 2 年度の方が小さい。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

《解答・解説》

I

【問1】 ④

(ア) 土地は、減価償却を行いません。

(イ) 定率法を用いると、初期の減価償却費は大きく、次第に小さくなります。

【問2】 ②

(イ) 自己株式の取得による支出は、財務活動によるキャッシュ・フローの区分に記載されます。

【問3】 ③

(ア) 時価総額の説明です。

II

【問1】 ③

【問2】 ③

【問3】 ①

営業外収益 35 = 有価証券評価益 20 + 受取配当金 5 + 有価証券利息 10

Ⅲ

貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書は、以下のようになります。

<資料1> 貸借対照表 (空欄部分) (単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
売掛金	(3,000)	2,000
流動資産合計	(9,000)	7,000
備品	(ア 3,000)	2,350
有形固定資産合計	(12,000)	11,850
固定資産合計	(14,500)	14,800
買掛金	2,000	(イ 1,500)
流動負債合計	5,500	(4,170)
退職給付引当金	1,000	(1,100)
固定負債合計	4,000	(3,330)
負債合計	9,500	(7,500)

<資料2> 損益計算書 (空欄部分) (単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
売上高	(ウ 60,000)	(48,000)
売上原価	(48,000)	(38,400)
売上総利益	(12,000)	(9,600)
営業利益	(6,000)	(4,000)
経常利益	(6,000)	(オ 3,000)
税引前当期純利益	(5,000)	(2,500)
当期純利益	(エ 3,500)	(2,000)

<資料3> キャッシュ・フロー計算書 (空欄部分) (単位：百万円)

	X 1 年度	X 2 年度
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,000	(カ △1,000)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,800	(△2,500)
現金及び現金同等物の増減額	200	(△500)

【問1】 ⑤

- ・有形固定資産の貸借対照表構成比率 50(%) = $\frac{\text{有形固定資産}}{\text{資産合計 24,000}} \times 100$ より、有形固定資産合計 12,000 百万円
- ・備品 3,000 = 有形固定資産合計 12,000 - (建物 8,000 + 車両運搬具 1,000)

【問2】 ③

- ・正味運転資 2,830 = 流動資産 7,000 - 流動負債より、流動負債合計 4,170
- ・買掛金 1,500 = 流動負債合計 4,170 - (支払手形 400 + 電子記録債務 1,400 + 短期借入金 700 + その他 170)

【問3】 ③

- ・総資本回転率 2.5(%) = $\frac{\text{売上高}}{\text{総資本 24,000}}$ より、X 1 年度売上高 60,000

【問4】 ④

- ・売上高売上総利益率 20(%) = $\frac{\text{売上総利益}}{\text{売上高 60,000}} \times 100$ より、売上総利益 12,000
- ・当期純利益 3,500 = 売上総利益 12,000 - 販管費 6,000 + 営業外収益 500 - 営業外費用 500 - 特別損失 1,000 - (法人税、住民税及び事業税 1,800 + 法人税等調整額△300)

【問5】 ③

<資料4> 「X 2 年度売上高：前年比 20%減」「X 2 年度売上高売上総利益率：X 1 年度と同じ」より、X 2 年度の数值は下記のようになります。

- ・売上高 48,000 = X 1 年度売上高 60,000 × (1 - 0.2)
- ・売上高売上総利益率 20(%) = $\frac{\text{売上総利益}}{\text{売上高 48,000}} \times 100$ より、売上総利益 9,600
- ・経常利益 3,000 = 売上総利益 9,600 - 販管費 5,600 + 営業外収益 200 - 営業外費用 1,200

【問6】 ④

- ・フリー・キャッシュ・フロー 2,000 = 営業活動によるキャッシュ・フロー 3,000 + 投資活動によるキャッシュ・フローより、投資活動によるキャッシュ・フロー△1,000

【問7】 ③

(ア) 間接法の場合、減価償却費は税引前当期純利益に加算します。

【問8】 ④

【問9】 ④

(イ) X 4 年度売上高 58,080 = X 2 年度売上高 48,000 × 1.1²

【問10】 ①

【問11】 ④

(ア) 手元流動性 = 現金及び預金 + 有価証券

【問12】 ①

【問13】 ④

(ア) 「企業の投下資本総額と売上高を対比した総資本回転率」です。

【問14】 ②

【問15】 ①

各指標は、以下のとおりです。

	指標	X 1 年度	X 2 年度
【問 8】	売上債権（百万円）	5,300	4,500
【問 9】	売上総利益の伸び率（%）		△20
【問 10】	流動比率（%）	163.6	167.9
【問 11】	手元流動性（百万円）	2,500	1,500
【問 12】	自己資本比率（%）	60.4	66.2
【問 13】	売上高経常利益率（%）	10.0	6.3
【問 14】	1 株当たり当期純利益（円）	350.0	181.8
【問 15】	株価収益率（倍）	5.7	8.3
	1 株当たり純資産（円）	1,450	1,336.4